

本校研究テーマ

自ら学び，思いを実現しようとする児童の育成
～学習者用端末の利活用を通して～



生活につなげる，生かす分科会 目指す児童像

学びを自分事にし，思いを表現しようとする児童

1 分科会設定の理由

人工知能の進化や情報技術の進展により，人々の生活が大きく変わりつつある。また，感染症の拡大や温暖化による大規模な自然災害など，予測困難な社会である現在の中では，児童が変化に柔軟に対応し，持続可能な社会の創り手となっていくことが求められている。そのために児童に身に付けさせたい資質・能力の中に，「エージェンシー」（変化を起こすために，自分で目標を設定し，振り返り，責任をもって行動する能力）^{（注1）}が注目されている。

そこで，児童がよりよい生活を目指し，身の回りの課題を見付け，主体的に解決していける学びを実践していきたい。このことから，「生活につなげる，生かす分科会」を設定した。

（注1）<https://kyoiku.sho.jp/146465/> 「みんなの教育技術」特集「知っておきたい教育用語」
執筆/創価大学大学院教職研究科教授 渡辺秀貴

2 目指す児童像設定の理由

本分科会では，学びを学校の中だけでとどめておくのではなく，この先社会に出てからも学校での学びを生かして，これからの社会を自分たちの手で創り出していけるような力を培ってほしいと願っている。

学びを生活につなげ，生かしていくためには，学習の内容や活動を自分事として捉え，人生や社会，生活等と関連付けたり，他者と関わったりしながら学びを深めていく「自分事としての学び」が大切であると考えた。自分の生活の中から追究する課題を設定したり，日常生活の中の現状と結び付けて考えたりする学習を通して，児童の主体性を高め，よりよい生活を築いていけるようにしたい。

また，様々な人が暮らす社会の中で生きていくためには，自分の思いを他者に表現し，よりよいものを創り出そうと話し合うことが必要である。

そこで，本分科会では「学びを自分事にし，思いを表現しようとする児童」を目指す児童像とした。

3 指導の工夫

≪主な手だて≫学びを自分事にし、思いを表現しようとするための工夫

①課題意識をもたせる

第1時で「どんな三小にしていきたいか」という問いを教師から投げかける。学習者用端末を活用して、その問いに対する児童の思いを全体で共有し、可視化できるようにする。自分たちの身の回りの課題に興味をもち、課題を追究していこうとする意欲を高めていけるようにした。

②見通しをもった学習過程の作成

目標は現状がそれに達していないから生まれると考える。それを受けて、「どんな三小にしていきたいか」という目標に対して、「現状はどうか」「何か課題があるのではないかと、現状と目標を比較させる。目標を達成するためには、どのような解決策を考えていくべきか、自分達で学びを進めていこうとする学習の流れを提示し、見通しをもてるようにした。

③情報収集、活用の工夫

現状や課題を適切に把握できるよう、インタビューや Forms を使ったアンケートの実施、写真や動画撮影アプリを使用し記録に残すこと等、課題に適した方法を選択して情報収集する。また、相手に伝わるように、グラフにしたり写真を提示したりする等、効果的な情報の活用の仕方も選択する。テーマに即した適切な情報の収集と活用で、自分たちの憶測ではなく、根拠をもった説得力の高い提案内容にすることができると考えた。

④思いを可視化し、意見交流する場の設定

学習者用端末を用いて、「よりよい三小をつくるために」の提案をプレゼンテーション資料にまとめ、可視化できるようにした。各グループの提案を他のグループに発表し、友達との意見交流を行うことで、よりよい提案内容にするために考えを広げたり深めたりする活動を設定した。

単元最後の活動では、各グループの提案を実践する学習活動を設定することで、自分たちの思いを実現するよさを実感させたい。学んだことを生かし、自分たちの生活を周りの人たちと協働しながらよりよくしていこうとする実践意欲を高めていけると考えた。

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日時 令和4年6月29日 第2校時

対象 第6学年1組 30名

場所 北校舎3階 6年1組教室

指導者 三好 雄太

1 単元名

新しい時代を生き抜こう ～6年生として今、できること～

2 単元の目標

- 学校をよりよくするための探究的な学習の過程において、課題解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、学校の特徴やよさに気づき、学校はたくさんの人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。〔知識及び技能〕
- 学校をよりよくするために問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、根拠を明らかにして考えたことをまとめ・表現する力を身に付ける。〔思考力、判断力、表現力等〕
- 学校をよりよくするための探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における評価規準

| ア 知識・技能 | イ 思考・判断・表現 | ウ 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|---|
| ①課題解決に必要な情報を収集、整理・分析するために、学習者用端末を有効に活用することができる。 ②課題に関わる概念を形成し、学校の特徴やよさ、学校に関わる人々の努力や工夫について気付くことができる。 | ①学校生活の中から課題を見つけている。 ②課題解決するための根拠となる情報を集め、整理・分析している。 ③課題解決の方法を適切に表現し、話し合うことで考えを広げたり深めたりしている。 | ①探究的な学習に、主体的・協働的に取り組もうとしている。 ②協働的に課題解決を追究していく中で、互いのよさを生かしながら積極的に社会に参画しようとしている。 |

4 指導観

(1) 単元について

急激な時代の変化、新型コロナウイルスの流行により、劇的に変化した学校生活の中であって、6年生として今できることを考え、実践していくために2年前に新設された単元である。コロナ禍の中、手洗い、マスクの着用、ソーシャルディスタンスといった新しい生活様式の指導が徹底され、制限の多い学校生活となった。あわせて、様々な学校行事が中止となり、どのように学校行事を行っていけばよいのか手探りの日々だった。当時の6年生が「自分たちの学校生活をよりよくしていくために、自分たちにできることを考えていこう。」という発想のもとに、外部講師を呼びコロナに関する知識を学び、運動会や発表会に変わる行事を考え、全校児童がしっかり

とコロナ対策に取り組めるように探究的に学習を進めていった。

コロナ禍の生活に慣れてきた今年は、コロナ対策だけでなく更に視野を広げ、学校生活全般に渡って「自分たちの生活をよりよくするためにできること」を考え、提案させる。それぞれの思いや考えを実現するために課題を見付け、追究していく過程を大切にしながら各自が考えたことを実践させる。自分たちの学びや活動が周りに変化をもたらすことを実感することで、社会に参画していく素地を養うとともに、各教科全般に渡っての学習意欲も高めたい。

考えたことをそのまますぐに実践するのではなく、一つの案をよりよく練り上げていく過程も経験させたい。国語科の「パネルディスカッションをしよう」の教材を活用し、互いに意見を交わして考えを広げたり深めたりすることで、各グループで考えた提案内容をより具現化していく。

課題を追究していくために、学習者用端末の利活用は様々な考えられる。情報を集めること、集めた情報を分析、整理すること、自分の思いや考えを表現すること等、どのように活用すれば効果的かも児童と教師がともに考えながら学習を進めたい。

(2) 児童の実態について

総合的な学習の時間では、5年生のころから課題解決していくために学んだことを他者に伝え提案してきた。

「農業の未来を考えよう」では、バケツ稲をきっかけに、お米について幅広く探究的に学んだ。毎日お米を食べることから、今よりもっとよりよい食生活が送れるように考えたことを家の人に提案し、実際に家庭の食生活の中に取り入れてもらうことができた児童もいた。

「八ヶ岳に学ぼう」では、八ヶ岳の自然を調べる中から、SDGsの取組目標の一つである「陸の豊かさを守ろう」につなげ、そこから「調布市の自然はどうなんだろう」という課題意識をもち、調布市の陸の豊かさを守るための提案を考えた。まとめたことを調布市の都市計画課の方に発表し、評価していただいたことで、「自分たちの学びが社会につながっている」という実感をもつことができた。

これまでの経験から、学んだ知識や技能を活用し、自分の思いを実現するための活動に意欲的に取り組める児童たちである。本単元では、実際に自分たちで行動していくことで、主体的に学校社会に参画し、責任をもって取り組んでいく姿を期待したい。

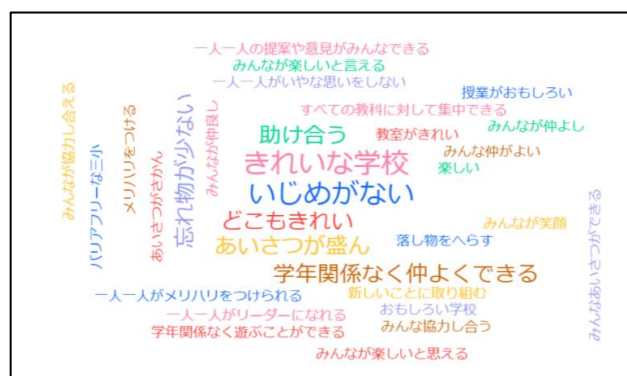
(3) 教材および活用するアプリやコンテンツについて



メンチメーター

リアルタイムでアンケートを集計したり、意見を集めたりすることができるアプリケーションである。投票数が多いものや同じ言葉が入力されたら、その言葉の文字が大きくなるため、「どの意見が多いのか」が直観的に分かることができる。

本単元の導入時、「どんな三小にしていきたいか」という問いに対し、一人一人がどんな思いをもっているのかを可視化して共有することができるようにした。



Forms

アンケートや小テストを簡単かつ素早く実施することができる。今回は自分たちが知りたいことについての質問を作成し、アンケート実施を呼びかけた。

カメラ機能

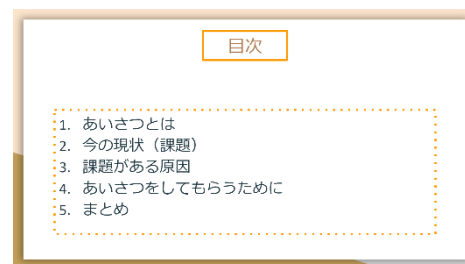
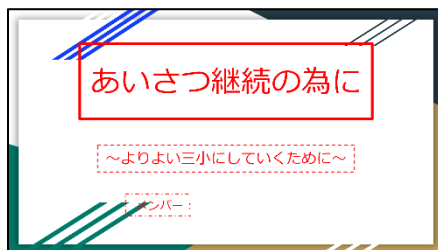
アプリケーションのカメラ機能を使って課題や現状の様子を撮影し、視覚情報として記録に残した。後のプレゼンテーション資料にも活用したことによって、相手に伝わりやすい根拠を提示することができた。

スプレッドシート

児童が実施したアンケートの結果をスプレッドシートに出力し、データを可視化することができる。スプレッドシートを基に回答結果を通して、どのような意見があるのか、どのような傾向にあるのか、現状や課題を分析・整理して、プレゼンテーション資料に役立てた。

スライド

調べたことや分かったことをまとめる際、共同編集しながらプレゼンテーション資料を作成することができる。同時に何人でも編集作業ができるため、役割分担するなどして協働的な活動の効果が見られる。また、何回も書き直したり、レイアウトの変更等が容易に行ったりすることができるため、時間短縮にもなる。作成したプレゼンテーション資料は、簡単に発表することができ、学級での発表活動に有効であった。










Pages

テンプレートが多くあり、文書やポスターなどを簡単に作成することができる。



5 単元の指導計画（13 時間扱い）

| 次 | 時 | ・学習活動 | ●指導上の留意点 ☆評価 | 使用したアプリ やコンテンツ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> どんな三小にしていきたいか話し合おう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな三小にしていきたいか話し合う。 ・そのために自分たちにはどのようなことができるか話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●メンチメーターを活用して、各自がどんな思いをもっているかを視覚化して共有する。 ●「理想とする学校」に向けて自分たちにできる活動を考えられるようにする。 ☆イ①【発言，行動観察】 |  |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分が取り組むテーマを決め，学習の見通しをもつ。 | ☆ウ①【発言，行動観察】 | |
| 2 | 3 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 現状と課題について調べよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のテーマに沿って，現状を調べ，課題を見付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ●自分の憶測ではなく，根拠となる情報（アンケート，写真など）を集めるようにする。 ☆ア①【学習者用端末】 イ②【行動観察，学習者用端末】 |     |
| | 4 | | | |
| | 5 | | | |
| | 6 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 課題を解決するための提案を考えよう。 </div> | <ul style="list-style-type: none"> ●①現状（課題）②課題がある原因③課題の解決方法（提案内容）の3点に視点をもてるようにする。 ☆ア②【学習者用端末】 イ②【行動観察，学習者用端末】 | |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するために自分たちができる提案を考え，スライドにまとめる。 | | | |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するために自分たちができる提案を考え，スライドにまとめる。 | | | |
| 3 | 9 (本時) 10 | <ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション形式で，グループごとに発表し，よりよい提案となるよう話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●発表者は自分の学習者用端末をスクリーンにつなぎ，スライドを操作しながら発表する。 ☆イ③【学習者用端末，ワークシート】 |  |
| 4 | 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・提案内容を実践する | ☆ウ②【行動観察】 |  |
| | 12 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返る。 | ☆ウ②【学習者用端末】 | |
| | 13 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返る。 | ☆ウ②【学習者用端末】 | |

7 本時の展開（9/13時）

（1）本時の目標

よりよい三小にしていくために考えた提案を発表し合い、意見を出し合うことで考えを広げたり深めたりし、実践意欲を高める。

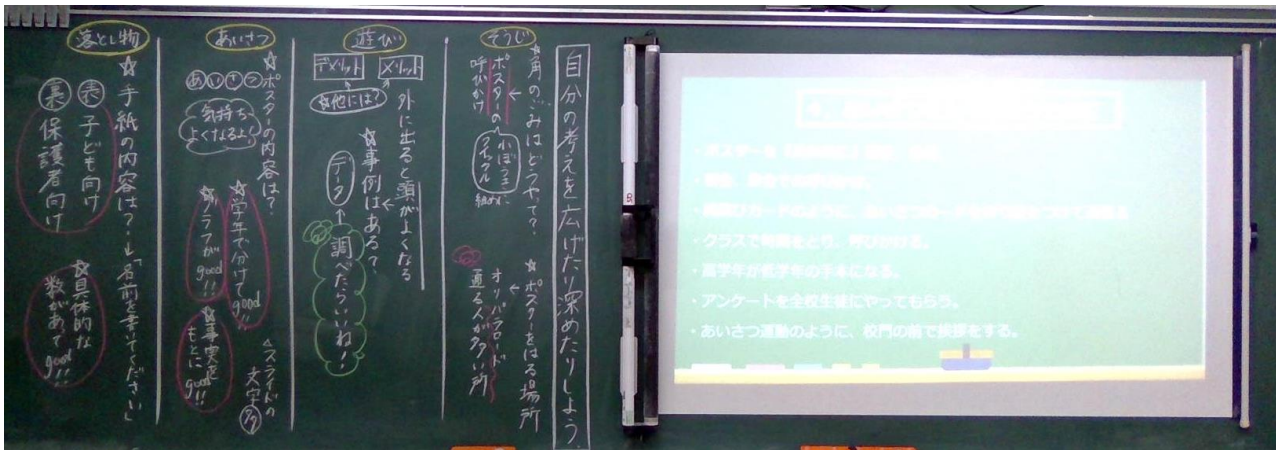
（2）本時の展開

| | ○学習内容 ・学習活動 | ●指導上の留意点 ☆評価 |
|-----|--|---|
| 導入 | <p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>パネルディスカッションで、自分の考えを広げたり深めたりしよう。</p> </div> <p>2 各役割の大切なところを確認する。</p> <p><司会> みんなの意見を整理する。</p> <p><パネリスト> 自分の考えが伝わるように表現を工夫する。</p> <p><フロア> パネリストの考えがよりよくなるような意見や質問を言う。</p> | |
| 展開 | <p>3 パネルディスカッションをする。</p> <p>○課題解決の方法を適切に表現し、話し合うこと。</p> <p>(1) パネリストが意見を述べる。 (2) 司会者が要点を整理する。 (3) フロアからの質問にパネリストが答え、クラス全員で話し合う。 (4) パネリストがまとめの発言をする。 (5) 司会者が、話し合い全体をまとめる。</p> <p><パネリストの発言> テーマ：よりよい三小にするために自分たちでできることを考えよう</p> <p>①あいさつをさかんにする ②すみずみまでそうじができるようにする ③コロナ対策について ④落とし物をへらす ⑤みんなが外遊びをするために</p> | <p>●異なる主張を議論する訳ではなく、それぞれの提案内容をよりよくするために意見を交わすことを確認する。</p> <p>●発表者は自分の学習者用端末をスクリーンにつなぎ、スライドを操作しながら発表する。</p> <p>●フロアは質問や意見が言えるように、ワークシートにメモを取りながら聞くようにする。</p> <p>●質問や意見は教師が板書に整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><次時のパネリストの発言> ⑥みんなが役に立つものを ⑦時間を守るために ⑧他学年と楽しく交流するために ⑨学校をきれいに ⑩いじめや差別をなくすために</p> </div> <p>●話し合いが終わった後に、各パネラーの意見に対して教師が価値付けをする。</p> |
| まとめ | <p>4 本時の話し合いの振り返りを書き、考えが変わったところ、深まったところ等を発表する。</p> | <p>☆課題の解決方法を適切に表現し、話し合うことで考えを広げたり深めたりしている。(イ③)【学習者用端末、ワークシート】</p> |

(3) 板書計画

| | | |
|---|--------------------------|-------------------------------------|
| <p>あいさつ そうじ 遊び コロナ対策 落とし物</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>※児童から出たグループごとの意見や質問を板書する。</p> </div> | <p>自分の考えを広げたり深めたりしよう</p> | <p>スクリーン</p> <p>(児童が作ったスライドを映す)</p> |
|---|--------------------------|-------------------------------------|

(4) 実際の板書



8 成果と課題

(1) 成果

- ・自分が追究したいテーマを各自で選択し、一人一人の興味関心に応じた学習活動に取り組んだ。学習者用端末で作成しているスライドをグループで共有することで、お互いの進捗状況を確認しながら、各自が自分たちのペースで学習を進めることができたことは、学習の個性化につながった。
- ・協働的な学びは多くの場面で見られた。どのように情報を収集し、分析、整理していくのか、それをどう伝えるのかなど、グループで話し合い、自分たちで選択・判断していった。端末活用の習熟度も違うため、常に教え合いが見られた。

(2) 課題

- ・この単元は、「三小をよりよくすること」をテーマに取り組んでいたが、提案のプレゼンをつくることで満足してしまった児童もいた。また、本時のねらいは意見交流をすることで「考えを広げたり深めたりすること」だったが、スライドの発表の仕方にもみ終始し、文字の大きさや見やすさ、声の大きさなどについての感想しかもてなかった児童もいた。
- ・学習者用端末を活用すること自体が目的になるのではなく、学習者用端末を活用して学習の目標を達成できるように注意していかなければならないと改めて感じた。